

獣害対策にドローンを活用！

～実証試験を開始～

佐用町（江川地区）



（赤外線カメラ及びスピーカー搭載ドローン＝（株）T&T提供）

地域課題

- ・地域住民、ハンターの減少及び高齢化問題。
- ・農作物被害の増加による営農意欲の減退。
- ・耕作放棄地の増加による獣害対策の必要性。

実証内容と結果

・佐用町は、深刻化するシカ、イノシシの被害等の地域課題に対応するため、兵庫県猟友会、ドローン事業会社（（株）T&T）等と連携し、ドローンを活用した捕獲作業の効率化に向けた実証試験※を令和5年度からスタート。

- ・実証試験は、猟犬の代わりに赤外線カメラとスピーカーを搭載したドローンがシカ等を追跡し、山林で待ち伏せしているハンターまで追い込み捕獲する内容。
- ・令和5年度は3回実施し、再生する音の効果確認、赤外線カメラで捉えた映像のモニター確認（熱反応で白く反応）と位置情報のハンターへの伝達や夜間の行動範囲のデータ収集等を実施。



（獣害対策動画＝（株）T&T提供）

【主な実証内容】

- ・実証1（R5.8）：猟犬の鳴き声（単数）の効果確認。
結果：地面温度が高い夏季は、地面とシカ等の熱反応の区別がつきにくく、追い込むことは不可能であったが、再音声に驚き飛び出したシカ1頭を捕獲し、音の効果を確認。
- ・実証2（R5.11）：複数の音（猟犬の鳴き声（複数）、銃声、爆竹音）の効果確認。
結果：地面温度が低くなり、シカ等の熱反応の確認が容易となり、シカ2頭を捕獲。
- ・実証3（R6.2）：実証前夜にドローンを飛行させ、赤外線カメラで収集したデータの活用。
結果：データをもとにハンターの配置場所を設定することにより、捕獲作業の効率化が可能。シカ2頭の捕獲となったが、実証2より捕獲レベルが向上。



（通常カメラで撮影したシカ、確認が難しい＝（株）T&T提供）



（赤外線カメラで撮影したシカ、白く反応し確認が容易＝（株）T&T提供）



（モニターで位置確認、ハンターに伝達）

課題と目標

- ・課題は、地面温度が高い時期の赤外線カメラの対策と追い込みによる逃走パターンに合わせたハンターの配置。
- ・令和6年度も補助事業※を活用し、これらの課題を解決するための実証を重ね、「ドローンによる効率的な捕獲マニュアル」を作成、情報発信し、被害を減少させることが目標。